

在宅医療に関するアンケート結果

平成30年3月
柏市保健福祉部 地域医療推進課

分析の目的

- ◎これまでの柏市の在宅医療の取組は、日本全国の中でも先進的取組として評価されてきたところです。
- ◎しかし、その取組の中身は市民にどこまで伝わっているのか不明なところもあり、また、在宅医療にどのような思いを持っているのか捉えきれていないところもありました。
- ◎今後の取組を検討する上で、在宅医療にどのような思いを持っているのか、どこまで理解されているのかを明らかにすることが必要ではないかと考え、可能な範囲でアンケート調査を行いました。

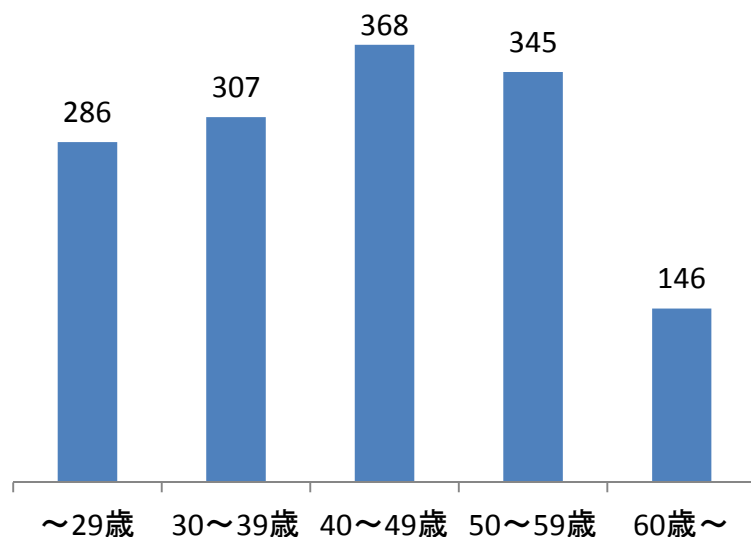
調査方法及び回答者属性

◎今回のアンケートは2つを対象に行いました。

A. 柏市職員（現役世代）

対象 柏市全職員
調査期間 H29.10.25～11.2
調査方法 庁内グループウェア
回答者数 1,452人
回答男女比 72.9%（男）
27.1%（女）

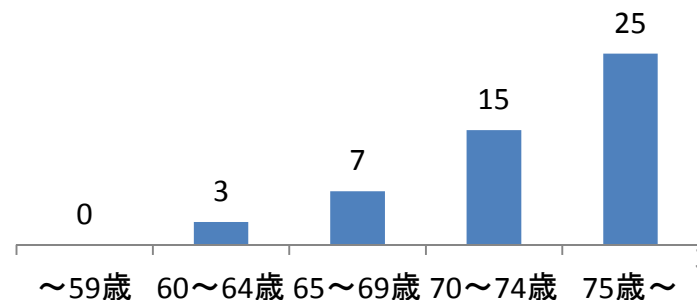
年齢



B. 出前講座（高齢者層）

対象 市民（町会サロン等）
調査期間 H29.10.25～11.16
調査方法 アンケート記入(講義前)
回答者数 50人
回答男女比 22.0%（男）
78.0%（女）

年齢

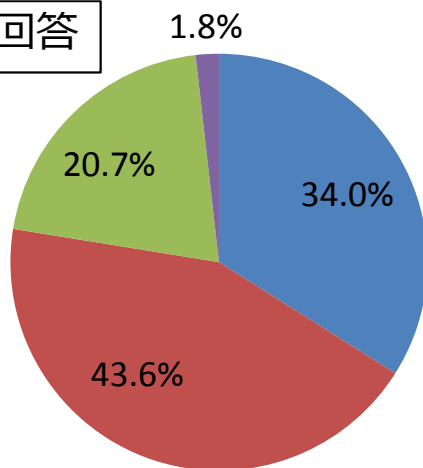


分析結果の要旨

- ◎約8割は、在宅医療について「知っている」もしくは「なんとなく知っている」と答えている。しかし、柏市が全国に先駆けて在宅医療の推進に取り組んできたことを知っている人は3割程度となっている。※データ1（5～6ページ）
- ◎在宅医療に対するイメージや思いについて、世代間で違いがある。「在宅医療に対する負担感」や「家族の選択に対する思い」など。※データ2（7～12ページ）
- ◎「自分が最期を迎えたい場所」と「家族の選択に対する思い」は相関関係にある。
※データ3（13～14ページ）

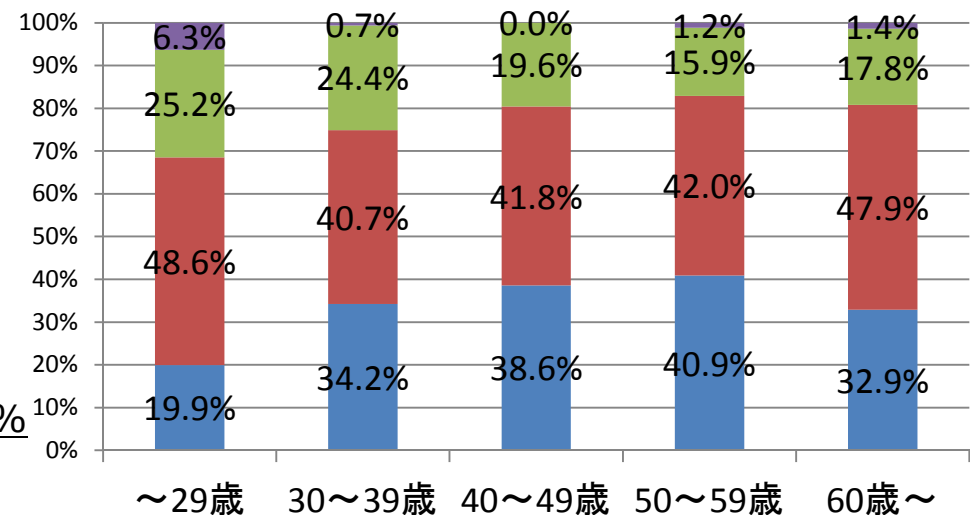
データ 1 - 1 在宅医療を知っていますか？

職員回答



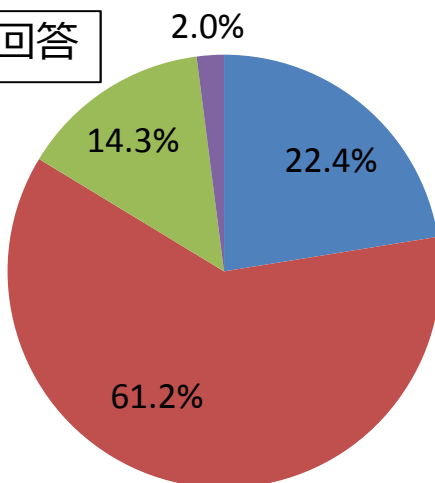
「知っている」「なんとなく知っている」回答は77.6%

職員回答年齢別



■ 知っている ■ なんとなく知っている ■ 聞いたことはある ■ 初めて聞いた

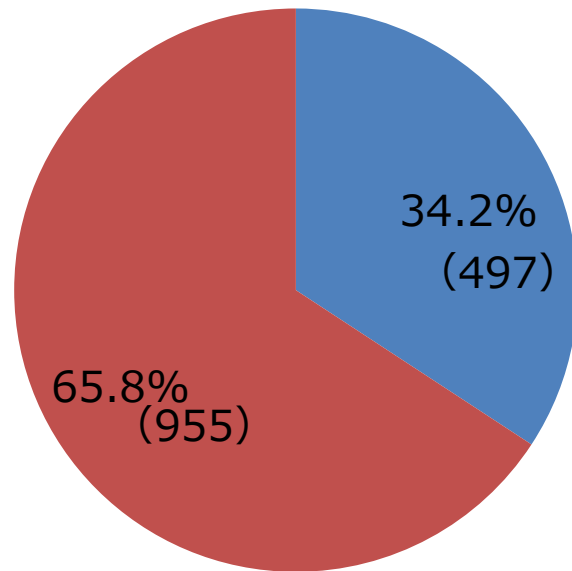
出前回答



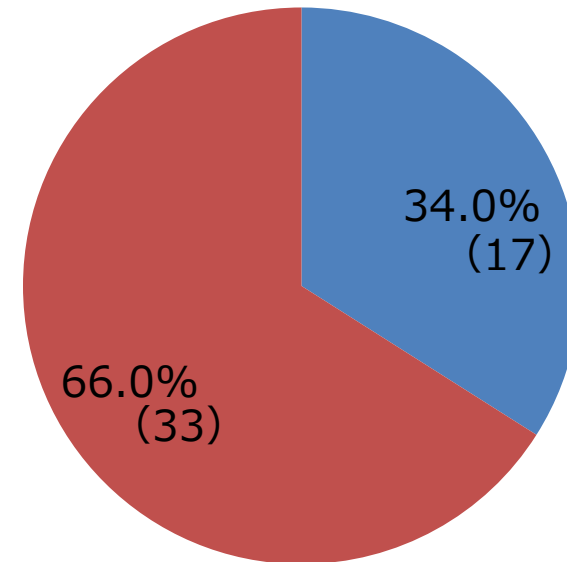
「知っている」「なんとなく知っている」回答は83.6%

データ 1 - 2 柏市が全国に先駆けて在宅医療の推進に取り組んできたことを知っていますか？

職員回答



出前回答



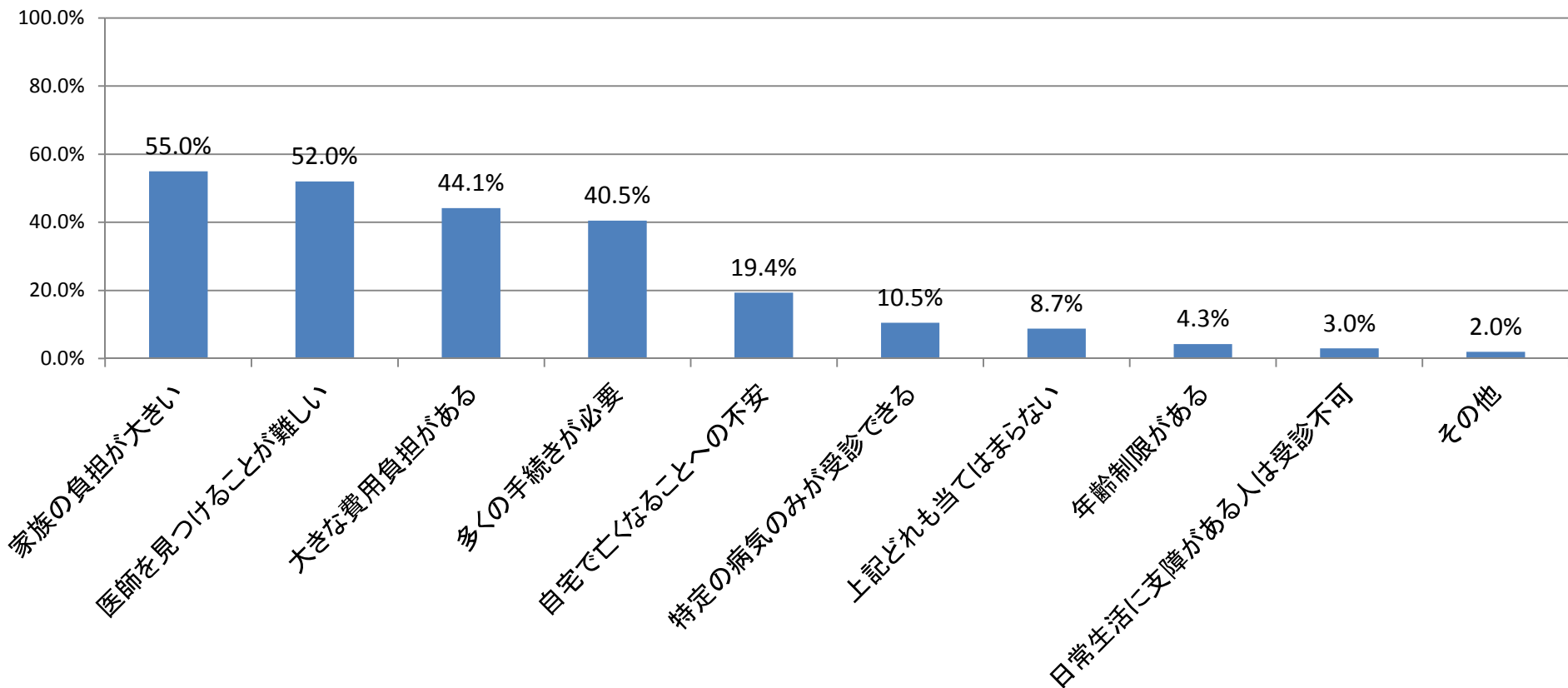
■ はい ■ いいえ

全体的に「知っている」約3割, 「知らない」約7割

データ 2 - 1

あなたがイメージする，もしくは知っている
在宅医療のことについて，あてはまると思う
ものに全てチェックしてください。(複数選択可)

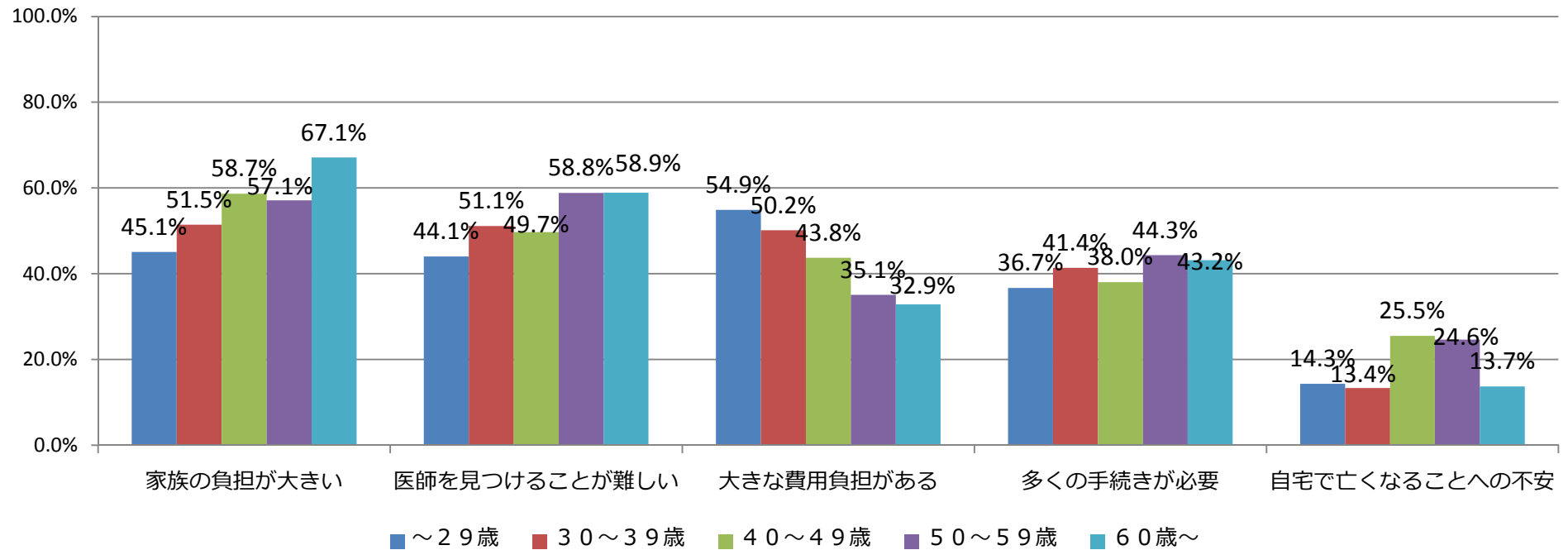
職員回答



データ 2 - 2

あなたがイメージする、もしくは知っている
在宅医療のことについて、あてはまると思う
ものに全てチェックしてください。(複数選択可)

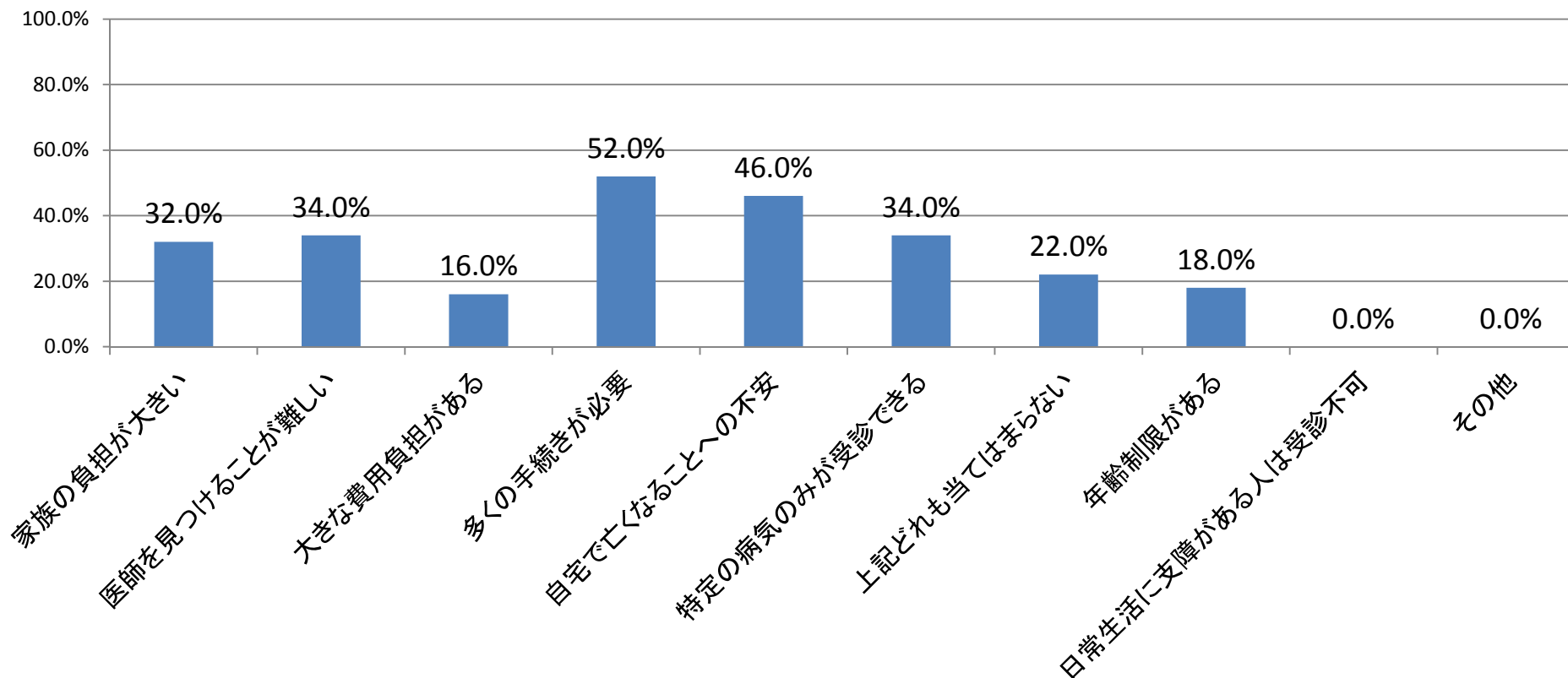
職員回答年齢別



データ 2 - 3

あなたがイメージする、もしくは知っている
在宅医療のことについて、あてはまると思う
ものに全てチェックしてください。(複数選択可)

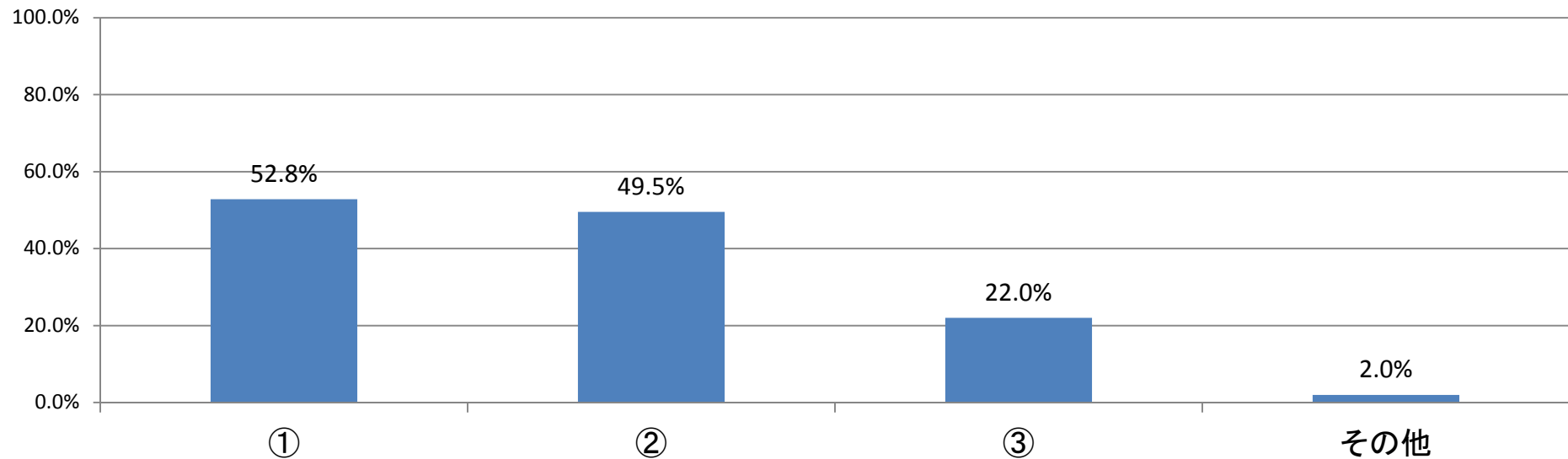
出前回答



データ 2 - 4

あなたの父母やパートナーなど，家族が大きな病気になって在宅医療を希望した時，あなたが思うであろうことを全てチェックしてください（複数選択可）

職員回答

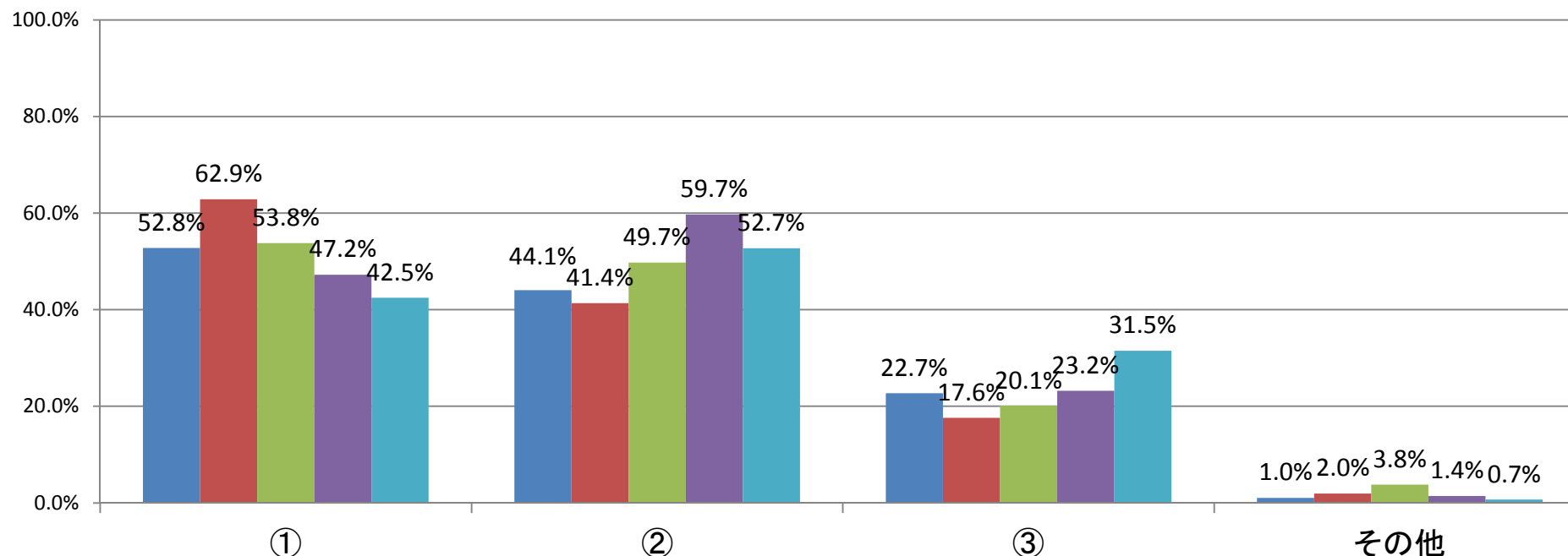


- ①本人の希望を叶えて在宅医療を受けられるようにしてあげたい
- ②本人の希望を叶えてあげたいが，仕事や家族の状況などを考えると難しいので，病院に入院してもらいたい
- ③在宅医療は不安だから，安心できる病院に入院するよう促したい

データ 2 - 5

あなたの父母やパートナーなど，家族が大きな病気になって在宅医療を希望した時，あなたが思うであろうことを全てチェックしてください（複数選択可）

職員回答年齢別



① 本人の希望を叶えて在宅医療を受けられるようにしてあげたい

② 本人の希望を叶えてあげたいが，仕事や家族の状況などを考えると難しいので，病院に入院してもらいたい

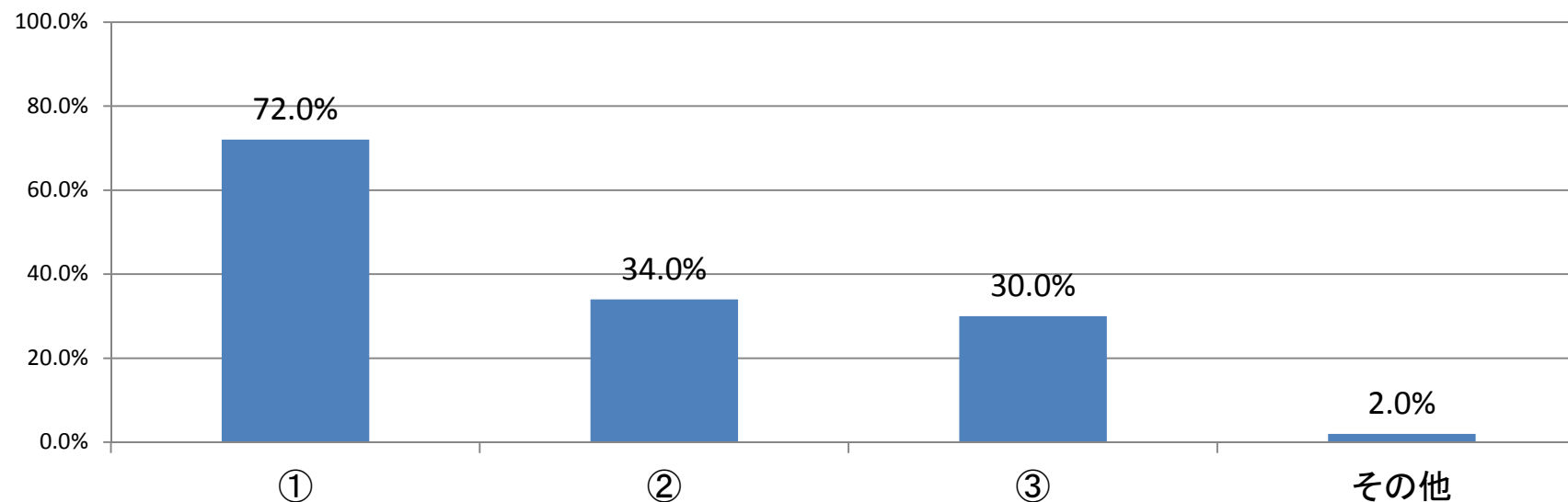
③ 在宅医療は不安だから，安心できる病院に入院するよう促したい

■ ~29歳 ■ 30~39歳 ■ 40~49歳 ■ 50~59歳 ■ 60歳~

データ 2 - 6

あなたの父母やパートナーなど，家族が大きな病気になって在宅医療を希望した時，あなたが思うであろうことを全てチェックしてください（複数選択可）

出前回答

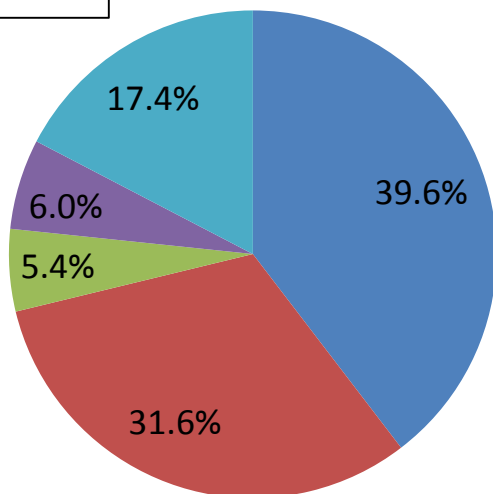


- ① 本人の希望を叶えて在宅医療を受けられるようにしてあげたい
- ② 本人の希望を叶えてあげたいが，仕事や家族の状況などを考えると難しいので，病院に入院してもらいたい
- ③ 在宅医療は不安だから，安心できる病院に入院するよう促したい

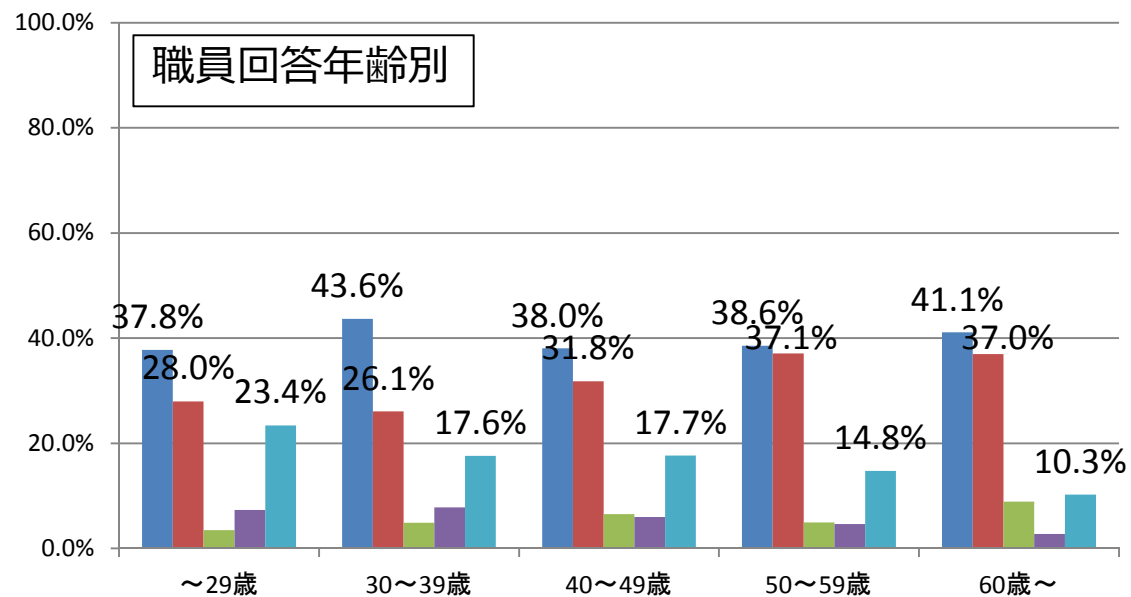
データ 3 - 1

あなた自身が亡くなるとしたら、どこで最期を迎えたいと思いますか？

職員回答

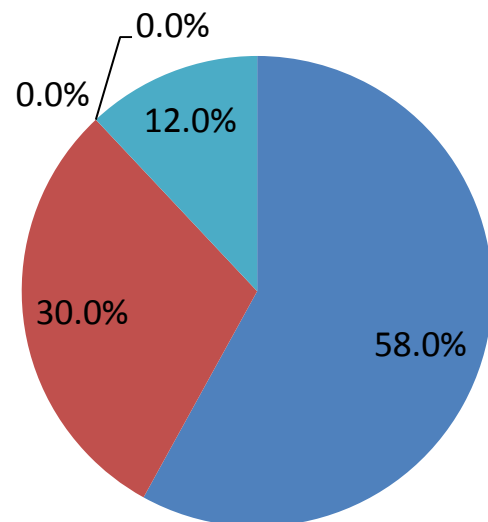


職員回答年齢別



■ 自宅 ■ 病院 ■ 老人ホームなどの施設 ■ その他の場所 ■ 死について考えることができない

出前回答

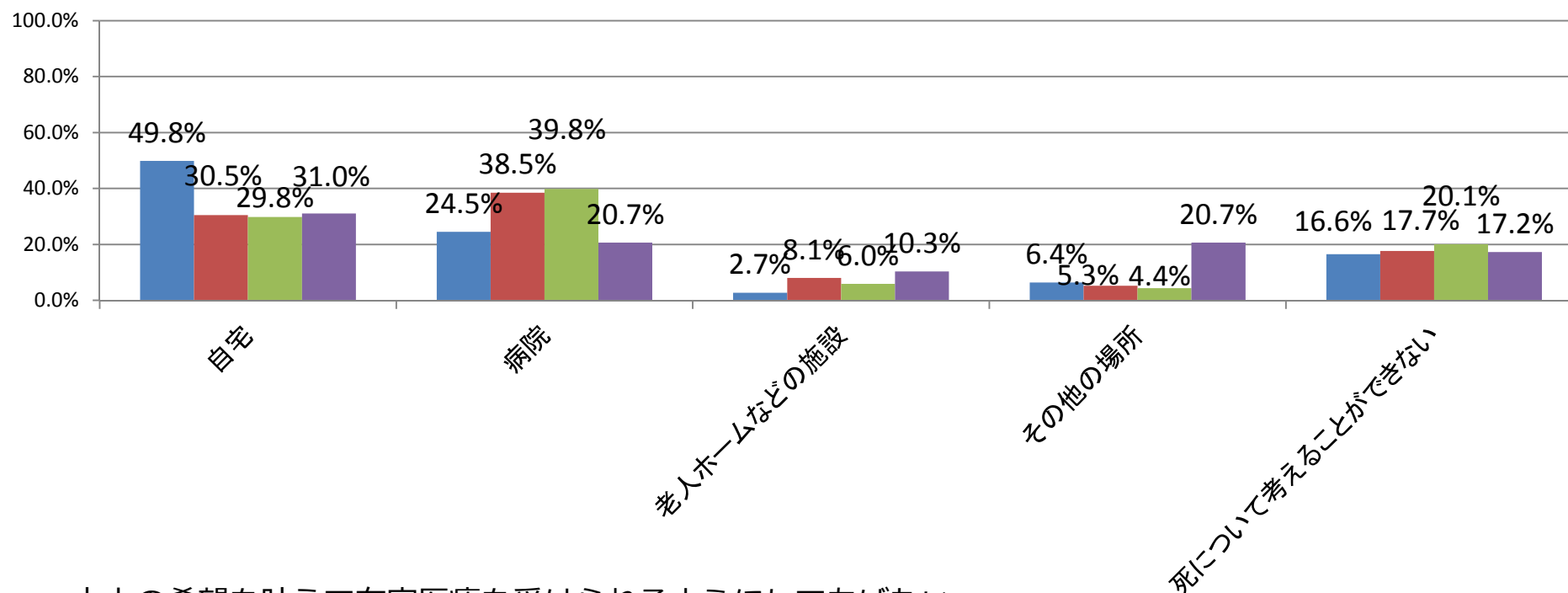


データ 3 - 2 家族の希望×自分の希望

※「家族が大きな病気になって在宅医療を希望した時思うこと」の回答と「自分がどこで最期を迎えたいか」の回答のクロス分析

職員回答

※出前回答はサンプルが少ないためデータ無し。



- 本人の希望を叶えて在宅医療を受けられるようにしてあげたい
- 本人の希望を叶えてあげたいが、仕事や家族の状況などを考えると難しいので、病院に入院してもらいたい
- 在宅医療は不安だから、安心できる病院に入院するよう促したい
- その他

(参考) 職員から寄せられた意見①

- ・ その場にならないと具体的なことは考えられないのが現実です。
- ・ 経済的制限等で病院や施設等に入院入所が不可能な方々や核家族的な少人数の世帯には良い制度だと思う。
- ・ もっと、在宅医療をしていただける先生を紹介、広報していただければ。
- ・ 在宅医療のおかげで、私の母は本人の希望どおり最期まで自宅で幸せに過ごせました。しかし、超高齢社会化の進展により、家を訪問して診療をしてくれる良い医師を見つけることが難しくなるほか、家族の総合的介護力をキープできるでしょうか。ひょっとしたら在宅医療と老人ホーム等の垣根が低くなり双方向にオンデマンドで利用できるような体制作りが解決方法かも。利用に当たっては、まず、家族内のコンセンサス作りが鍵を握っていると思いますが、正確な情報が何よりの意思決定の材料と考えます。
- ・ 在宅医療が声高に言われているが、そもそもこれは在宅介護が前提ではないか？だとするなら、いくら在宅医療を充実しようとしたって、在宅介護が「できる」人を増やさない限り、その意義は薄れてしまう気がする。もっとも、今在宅介護している中から、在宅医療を導入する、という位置づけならわかるが。世間一般の受け止めは、在宅介護が軽減される とか、在宅介護ができる、ではないだろうか。在宅医療の充実、という前に大きな問題（在宅介護ができる状態をどうつくるか）があると思う。私自身は親の退院時に迷わず、施設入所を選択した。在宅介護って言ったって、共稼ぎで親と別居じゃ、仕事を辞める以外に在宅介護なんてできないから。仕事辞められる人なんて、よっぽど恵まれている人だと思う。
- ・ 数年前に末期がんの義母を自宅で看取りました。高齢の義母にとっては、初対面のヘルパーさんや医師の方々が自宅に出入りすることにストレスを感じていたようです。病気で心身ともに弱っている場合のケアの難しさを感じました。しかしながら家族側にとっては、ケアマネジャーの方がきめ細かく要望に対応していただき、負担が大幅に軽減されました。また、心理的にも心強く、お陰で仕事を辞めなくてすんだのだと、とても感謝しています。

(参考) 職員から寄せられた意見②

- ・テレビではよく見かけますが、問題点が強調されていること、体系的に紹介されていないことから、正しく理解されていないように思います。先日、イオン柏で認知症のイベントというか紹介をやっており、そういう場所だと「ちょっと覗いてみようか」という気になるので、セミナーよりも気軽に立ち寄れるところの方が関心を引きやすいのではないかと思います。
- ・乳がんでお亡くなりになった小林真央さんの影響で、在宅療養は幸せな選択のひとつなんだと感じるようになりました。一方で、在宅療養は死間近な方とご家族にとっての、最後の時間というイメージもついてしまった気がします。
- ・自宅で最期を迎えたい人にとっては在宅医療は良い選択肢であると思うが、家族の負担や緊急時の対応などで不安なことも多い。また、実際に在宅医療を利用する際に、どこに連絡をすれば良いかなど知らないことがあるので、もっと積極的なPRをしても良いと思う。
- ・実の母親は在宅医療を希望するかもしれない。日中、一緒に過ごせる人がいれば望みを叶えてあげたい。具体的なサービスを期待しているのではなく、心配なのでとにかく見守りの目がほしい。働きながら在宅医療を選択するイメージがわからない。特に在宅医療を受ける人が独居だった場合のイメージがほしい。
- ・在宅介護が可能な世帯でないと利用できない、費用面も高額そうというイメージがあります。事例を元にこのような形で利用できる、利用されている方がいる、とPRしていただきたいと思います。